

第9回（仮称）下井草まちづくりラボ【令和7年12月6日（土）】

テーマ：駅前広場・交通結節点のあり方

第8回に引き続き、駅前広場・交通結節点のあり方をテーマとし、「下井草らしさ」に着目した下井草のまちにふさわしい駅前広場について、事例写真と地図を用いて班ごとにグループワークを行い、前回の検討案をさらに深堀りしました。

【駅前広場のグループワーク結果②】

1班 キャッチフレーズ：住んでいる人が集い、憩い、活躍する静かな駅前広場



- ・住んでいる人が集い憩い活躍できる。
- ・住んでいる人が関われることで愛着が湧く。
- ・地域住民が街に出ることで生まれるにぎわいは、騒がしくなく静かであり、住環境を守り、住民優先となる。
- ・地域住民がまちに出てくれば店もでてくる。

2班 キャッチフレーズ：地域で活用できる、人の集う広場



- ・外から大きなイベントを呼んでくるのではなく、地域住民や商店街がイベントに使える場所として活用する。
- ・木陰の下にベンチを置き、子どもの遊具を置いたりするなど、ゆったりくつろげる場所にする。
- ・バス停には屋根やベンチがあると良い。北側の環境側道はバスのみ乗り入れ可とし、一般車両の送迎は駅南側で行う。

3班 キャッチフレーズ：よりみちひろば ～みんなで集うおにぎりカフェ～

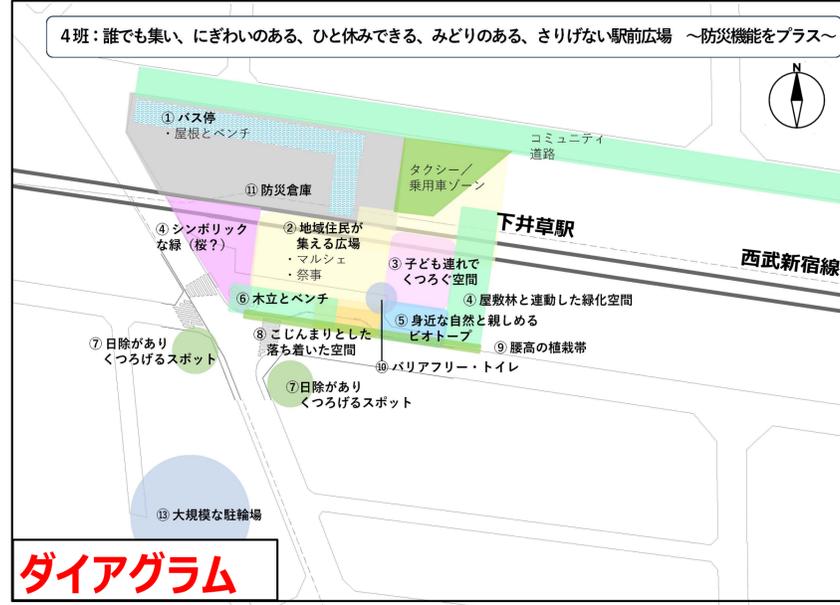


- ・ベンチがたくさんあって、みどりのカーテンで夏も涼しげに過ごせて、お店が並んでにぎわうひろば。
- ・お店は地域の人たちも出店したり、安心食材のおにぎりカフェがあったりして、塾に通う子供や若者から高齢者までが集い、知り合いが増えていく、つつい寄り道したくなるひろば。

4班 キャッチフレーズ：誰でも集い、にぎわいのある、ひと休みできる、みどりのある、さりげない駅前広場 ～防災機能をプラス～



ワーク作成図



ダイアグラム

・地域の高齢者、子ども、障がい者誰もが集い、ひと休みすることができる、大きな広場。
・ここでいう「にぎわい」とは、地域の人々が日常的に集う「にぎわい」であり、奇をてらったものではなく落ち着いた、さりげない空間であること。

6班 キャッチフレーズ：歩行安全と交通利便性のバランス案/閑静・こじんまり/歩行者スケール(下井草スケール) /仕事帰りに深呼吸



ワーク作成図



ダイアグラム

・バス・タクシー動線を駅西側の線路用地を活用することで買収用地を最小限に抑え、駅前広場内にロータリーを作らない。
・駅前広場は木陰の下のベンチや芝生広場がある、ホッとするような場所にする。

8班 キャッチフレーズ：四季つながる回遊空間



ワーク作成図



ダイアグラム

・四季折々の風景が生まれ、「広場×広場、人×人、日常×非日常、自然×人」をテーマにコミュニティが繋がることができる憩いの広場と、交通広場を、「つながロード」というにぎわいの動線で結び、雨や暑さをしのぎながら回遊できる駅前空間をつくる。

※第9回では、第8回で各班が検討した案をもとに、参加者が希望する班に参加してグループワークを行いました。
 ※6班は、第8回のいずれの案にも属さず、新たな案を考案したい参加者で構成されています。
 ※8班は、人数調整のため、1班を2つに分けて編成した班になります。
 ※5班は、当日の希望者がいなかったため編成されませんでした。
 ※7班、8班については、本来、人数が多い班を分割して編成する予定でしたが、実際に人数が多かったのは1班のみであり、座席の都合上、その超過分の参加者を1班の隣となる8班で編成したため、7班は構成されていません。